

言語文化教育研究学会 第4回年次大会プログラム (於 立命館大学衣笠キャンパス敬学館)

一日目：2018年3月10日(土)

9:00	受付開始 (受付 258 教室)		
9:30	開会式 (大会場 250 教室)		
10:00 - 11:40	ワールドカフェ (252 教室)		
	ナラティブと言語文化教育—その実践と研究の地図を描く コーディネーター：三代純平 (武蔵野美術大学)		
11:45 - 12:30	総会 (大会場 250 教室) ※会員の皆様は必ずご参加ください (昼食持ち込み可)		
12:00 -	ポスター掲示 (A~D会場) ※掲示期間は二日目 15:00 まで。期間中は、自由に閲覧・コメント記入が可能です。		
13:00 - 15:30	大会シンポジウム (大会場 250 教室)		
	ナラティブの可能性—「語り」の社会的意義 シンポジスト：小川明子 (名古屋大学), サトウタツヤ (立命館大学), 嶋津百代 (関西大学), 横田雅弘 (明治大学) コーディネーター：北出慶子 (立命館大学)		
15:40 - 18:40	口頭発表		
	第1会場 (251 教室)	第2会場 (252 教室)	
	第3会場 (253 教室)		
①15:40 - 16:10	ナラティブ・アプローチを支える現象学的思考の枠組みについて—アイルランドで「複言語育児」を実践する親たちへのライフストーリーインタビューから (稲垣みどり：早稲田大学)	②15:40 - 16:10 「過去」の振り返りが「未来」を創る—日本語コミュニケーションプログラムに参加した日系カナダ人の事例から— (佐藤貴仁：慶應義塾大学, 渡瀬容子：日系シニアズヘルスケア住宅協会)	
③16:15 - 16:45	「ハーフ」と「ひきこもり」の部分的つながり (藤谷悠：慶應義塾大学 SFC 研究所)	④16:15 - 16:45 成人日本語教育機関の教室はどのように長期間継続しているのか—複線径路等至性アプローチによる教師の語りの分析— (内山喜代成：名古屋大学大学院)	⑤16:15 - 16:45 異質性の認識—秋田県仙北市グリーン・ツーリズム運営農家の事例— (牲川波都季：関西学院大学)

第1会場 (251 教室)	第2会場 (252 教室)	第3会場 (253 教室)
<p>⑥16:50 - 17:20 第二言語を使ったコミュニケーション意欲-JSL 生徒がコミュニケーション行動に至った動機とその心理的過程-(増山美幸:立命館大学大学院)</p>	<p>⑦16:50 - 17:20 外国人学生の人ラティブを「行為」として捉える意義(飯野令子:常磐大学)</p>	<p>⑧16:50 - 17:20 介護現場における多文化共生社会へのとびら—高齢者施設における外国人介護人材とクライアントの語りから—(尹惠彦:関西大学大学院)</p>
<p>⑨17:25 - 17:55 ブラジルに帰国した日系人の子どもが語る「移動の経験」と「日本語学習」—日系コミュニティとの関係性に着目して—(中澤英利子:横浜市立大学大学院)</p>	<p>⑩17:25 - 17:55 社会とつながるコミュニケーションを考える:産学連携事業による映像制作実践(三代純平:武蔵野美術大学)</p>	<p>⑪17:25 - 17:55 1970年代のイタリアにおける言語教育の口述言語の重要性—De Mauro が構想した複言語主義の視点から—(西島順子:京都大学)</p>
<p>⑫18:00 - 18:40 (40分) 外国にルーツを持つネイティブ日本語教師の言語学習と言語教育の意味—韓国語を学び、韓国で日本語を教える在日コリアン教師のアイデンティティ研究から—(澤邊裕子:宮城学院女子大学)</p>	<p>⑬18:00 - 18:40 (40分) 映像を用いた実践共有の可能性—日本語中級学習者を対象としたプロジェクト活動をもとに(瀬尾匡輝:茨城大学, 瀬尾悠希子:大阪大学大学院)</p>	<p>⑭18:00 - 18:40 (40分) 「いま,ここ」にある社会問題をより深く理解するための批判的談話研究—沖縄オスプレイ墜落事故の新聞記事分析その2—(名嶋義直:琉球大学)</p>
<p>懇親会 (19:00-21:00) 於: 諒友館食堂 ※事前申し込みが必要です。</p>		

二日目：2018年3月11日（日）

9:30 受付開始（受付 258 教室）			
10:00-11:40 フォーラム発表			
第1会場（251 教室）		第2会場（252 教室）	
①10:00 - 11:40 ナラティブのアーカイブ化の意味と可能性—言語間を移動した人たちの語りから見えるもの—（遠藤ゆう子：早稲田大学，福村真紀子：多文化ひろば あいあい，ロマン・パンシュカ：神田外語大学，佐藤正則：山野美容短期大学）		②10:00 - 11:40 言語教育のなかの演劇におけるナラティブの意義（飛田勘文：早稲田大学，中山由佳：早稲田大学，西村由美：関西学院大学）	
第3会場（253 教室）			
③10:00 - 11:40 【学会企画フォーラム】2017年度言語文化教育研究会研究集会「クリティカルとは何か」【上映会】（言語文化教育研究会研究集会実行委員会（代表：瀬尾匡輝））			
11:45-13:45 ポスター発表			
前半（11:45 - 12:45）			
A会場（254 教室）	B会場（255 教室）	C会場（256 教室）	D会場（257 教室）
A-1 「連携論」から「融合論」へ：社会的統合の時代における国語教育と日本語教育—「新・エルコスの祈り」の相互実践から—（南浦涼介：東京学芸大学，清水良：東京学芸大学附属世田谷小学校）	B-1 ピア・リーディングにおける知識の相互行為的達成—クリティカル・リーディング力育成を目指した活動のタスク横断的な会話分析—（久次優子：大阪大学大学院）	C-1 大学進学を果たした私たち—外国人高校生の語り—（神山英子：国際医療福祉大学）	D-1 熟練教師の語りを学びの資源とする日本語教師研修の提案（牛窪隆太：関西学院大学）
A-3 「多文化理解はできたのか？」—国際共修クラスの運営と実際—（川上ゆか：広島修道大学）	B-3 絵本を教材として使う（2）：語彙・文型・表現の検討（小松麻美：蔚山大学（韓国）早稲田大学大学院）	C-3 外国人技能実習制度における日本語教育を考える—外国人技能実習生受け入れ機関で日本語教育に携わっている者のナラティブを通して—（宮本敬太：グットハーモニー協同組合・桃山学院大学）	D-3 海外における日本語教育による意図せざる<葛藤>の克服—青年海外協力隊日本語教師とグアテマラ人日本語学習者のナラティブから—（新井克之：九州大学大学院）
A-5 平和（PEACE）をテーマとした地域住民参加型日本語授業の試み—留学生と世代の異なる地域の人たちとの間で何が語られていたのか—（家根橋伸子：東亜大学）	B-5 大学生学習支援者の力量形成—カフェ・ラウンドテーブルの試み（佐野香織：早稲田大学）	C-5 国内就職を通じた留学生のキャリア形成プロセスの解明—地方大学における事例から—（山本晋也：徳山大学）	D-5 発話機能にあらわれる韻律特徴（高村めぐみ：愛知大学）
		C-7 南米日系人のアイデンティティと言語教育観の形成—複線径路・等至性モデリング（TEM）を用いた事例研究—（宮村舞：京都産業大学）	D-7 スリランカ人日本語学習者の感謝場面についての理解及び感謝表現の特徴（S.M.D.T.RAMBUKPI TIYA, S.M.D.T.ランブクピティヤ：久留米大学）

後半 (12 : 45 - 13 : 45)

A会場 (254 教室)	B会場 (255 教室)	C会場 (256 教室)	D会場 (257 教室)
A-2 教師教育者は多様性をどのように扱っているのか—市民性教育を担える教師の育成のために (南浦涼介：東京学芸大学, 川口広美：広島大学, 橋崎頼子：奈良教育大学, 北山夕華：サウスイースト ノルウェー大学)	B-2 外国人学習者は古典日本語をどのように読んでいるか—外国人研究者への古典日本語教育を考える— (山口真紀：東京工業大学大学院, 野原佳代子：東京工業大学)	C-2 複数言語環境で育つ高校生のナラティブ・アイデンティティ—3年間の「自己紹介」作文の実践から— (河上加苗：早稲田大学大学院)	D-2 教授過程における自立的学習に対する意識化についての—考察—教師の語りを通して— (Shorina Dariyagul, ショリナ ダリヤグル：筑波大学大学院)
A-4 多言語・多文化社会をつくる手段としての「多言語絵本の読み聞かせ会」(ゴロウィナ・クセーニヤ：東京大学, 吉田千春：明治大学大学院)	B-4 深い内省を目指した記述式ルーブリックの実践 (淺津嘉之：関西学院大学)	C-4 日本語の学習と使用がもたらす個人への影響と個人・社会間の作用関係—ベトナム・ドイモイ改革以前の日本語学習者の語りから— (坪田珠里：京都外国語大学大学院)	D-4 スリランカにおける現地日本語教師の教育観—中等教育機関の教師の語りからの考察 (高田麻由：東京外国語大学大学院)
A-6 タブー視されるトピックを取り上げるということ—自殺をめぐる日本語授業を例に— (萩原秀樹：インターカルト日本語学校)	B-6 留学生の着付けボランティアのインタビューを通して語られる人間関係の形成 (小笠恵美子：東海大学)	C-6 TEM を用いて外国人留学生の就職活動を考える—大学院で学ぶ韓国人留学生の事例から— (上川多恵子：創価大学)	D-6 異なる言語学習者のビリーフ：ビジュアル・ナラティブによる探索 (鈴木栄：東京女子大学, 松崎真日：福岡大学, 水戸貴久：別府溝部学園短期大学)
A-8 言語教育の商品化の議論へ向けた新たな視座—新自由主義に関する先行研究の文献レビューから (瀬尾匡輝：茨城大学)	B-8 「外国の人から見ると日本語も大変なのだ」—留学生との交流を通じた言語への意識化— (米本和弘：東京医科歯科大学)		

13 : 50 - 14 : 30 口頭発表

第1会場 (251 教室)	第2会場 (252 教室)	第3会場 (253 教室)
①13 : 50 - 14 : 30 (40分) なぜ物語は実践研究にとって重要なのか—仮定法実在性による利用者用一般化可能性— (柳瀬 陽介：広島大学大学院)	②13 : 50 - 14 : 30 (40分) 教師が〇〇語教育ではない言語教育を行うようになる過程—補習授業校教師のライフストーリーから (瀬尾悠希子：大阪大学大学院)	③13 : 50 - 14 : 30 (40分) EPA フィリピン人介護福祉士の就労意識の変容プロセスに関する研究 (稲田栄一：立命館大学大学院)

14 : 35 - 16 : 40 パネルセッション

第1会場 (251 教室)	第2会場 (252 教室)
①14 : 40 - 16 : 40 複数機関によるインタビュー・プロジェクトの実践：「ときめき取材記」の試み (千葉美由紀：国際文化フォーラム, 上田安希子：東海大学, 荻野雅由：カンタベリー大学 (ニュージーランド), 矢部まゆみ：横浜国立大学, 三代純平：武蔵野美術大学)	②14 : 40 - 16 : 40 留学生のキャリア意識とキャリア支援の「ずれ」を考える—日本語学校・短大・大学 (首都圏・地方) の留学生の語りから— (寅丸真澄：早稲田大学, 江森悦子：早稲田大学, 佐藤正則：山野美容芸術短期大学, 重信三和子：武蔵野大学, 松本明香：東京立正短期大学, 家根橋伸子：東亜大学)